

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692700020		
法人名	医療法人社団 外松医院		
事業所名	ハーモニーグループホーム		
所在地	京都府舞鶴市竹屋98-1		
自己評価作成日	令和元年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&dirvosyoCd=2692700020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に寄り添ったケアを意識し、スタッフ全員がご利用者様との良い関係作りが出来ている。出来る限り季節を感じられる行事を取り入れ(お餅つき、豆まき、桜や藤(植物)ドライブなど)季節感のある施設作りが出来ている。出来ることは参加(掃除や食事作りなど)をして頂き、頭脳ゲーム、テーブルゲーム等楽しみを持ちながら自立支援を行っている。近隣住民とのふれあいを大切にしています。健康管理では、24時間対応の医療体制があり、連携しながら安心して生活を送って頂ける環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは経年の中で地域と良好な関係を築き、餅つきや敬老会に自治会関係者や市職員の参加を得たり、施設全体で行う文化祭は多くの地域の方の参加を得て交流を深めています。利用者の平均年齢が90歳を超え活動的な暮らしが困難となっていますが料理や洗濯物たたみ等に携わったり、継続している週に1度の書道や新たにパズルや色合わせ等の手先を使う機会や体操を取り入れる等、楽しみながらその人らしく暮らせるよう支援しています。家族へは毎月様子を知らせる「連絡票」や3カ月毎にホームの行事等の写真を纏めた「日々のニュース」を送付し、敬老会と同日に行う家族会ではほぼ全家族の参加を得ており、家族とも良好な関係を築いています。母体が医療法人であり看護師も常駐し医療体制を整え、最期までホームで過ごせるよう意向に添った看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時にスタッフ全員で理念を唱和し常に意識を促している。ミーティングで理念に沿った支援となるよう話し合い実践に繋げています。	開設時に作成された基本理念をフロアに掲示し、毎朝申し送り時に唱和すると共にパンフレットにも記載し周知しています。利用者や職員等関わる総ての人の「和」を大切にしながらケアを考える際や迷いが生じた時等には理念に立ち戻り、利用者を尊重し思いに添った暮らしとなっているか等を振り返り確認しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事の参加を出来る限り行っています。	運営推進会議や回覧板を届けてもらった際に地域の行事等の案内をもらい祭りの見学や避難訓練に利用者に参加しています。ホームの餅つきや敬老会は地域の方に声をかけて行い、更に施設の文化祭は地域にも定着し多くの方が訪れており、利用者が交流できる機会となっています。また併設施設に歌やハーモニカ等のボランティア来訪時は利用者も一緒に参加し楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の中で介護支援相談や健康相談などのコーナーを作り地域住民の参加の声掛けを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催しており、自治会長、民生委員、市高齢者支援課、地域包括、家族会会長の参加を頂き会議の中で得られたご意見を参考にさせて頂きサービスの向上に繋げています。	会議は町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員などの参加を得て隔月に開催しています。利用者や活動の状況、身体拘束の取り組みや事故やヒヤリハットでは対応策を含めて報告を行ったり、前回の課題についての取り組み状況の報告も行い意見交換しています。また参加者から介護保険に関する情報や地域行事や水害時の情報などを得ており、運営に活かせる有意義な会議となっています。	家族の参加が難しい状況となっていますが家族が参加しやすい日時や工夫や知りたい情報を取り入れるなど、引き続き参加が得られるよう取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いており、事業所の報告、市からの報告とさせて頂いた中で情報の交換ができています。	市職員は運営推進会議への出席やホームの敬老会にも参加を得たり、管理者は市のグループホーム連絡会の役を担っており、何かあれば気軽に相談ができる協力関係を築いています。研修案内等も届いており、内容により参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止対策委員会を設置。委員会開催年4回。又、運営推進会議にも利用している。 他、時間を設けて身体拘束の勉強会を持ち理解を深めています。	年に2回身体拘束に関する研修の実施と各自チェック表を基に個々に振り返る機会を持ったり、年4回身体拘束委員会で話し合った内容を会議の中で職員に伝え、拘束のない支援に取り組んでいます。言葉による制止が見られた場合はその都度注意し職員への理解も浸透してきています。出入口は体制により一時的に施錠する事がありますが弊害については職員に説明し外に行きたい方には付き添っています。	

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修会に参加し、施設内においても勉強会を実施している。スタッフは言葉による抑制等も無いように努め、不適切な対応が見られた時は、都度、個別に指導を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設を見学して頂いた上で、入居時の説明を十分に行い、入居後も疑問点が無いか伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会会議などで意見を伺いそれらを運営に反映させるようにしています。	利用者の希望は日々の中で聴き、個別の希望が多く自宅や美容院等に付き添っています。家族へは毎月連絡票や3ヶ月に1度「日々のニュース」を送付し、利用者や日常の様子を伝え意見を言いやすい関係作りに努めています。面会時の他、年に1度の家族会はほぼ全家族が参加しており、意見や要望を聞く機会になっています。家族の意見を受けて毎月送付する便りの改善を検討したり、全体で体操の機会を増やす等の取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的及び必要時に個人面談を取り入れながら意見を聞くようにしています。	職員の意見や提案は毎朝のミーティングや職員会議の他、日々の業務の中でも多くの意見や提案を聞いており、職員の意見を受けてシフトの変更などに繋がっています。また職員には環境や広報、畑などの担当があり、文化祭などの大きな行事を含めて職員が主体的に考え取り組んでいます。また定期的面談の際や様子を見ながら随時声をかけ話を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の報告や、職員個々の状況を把握しながら頑張っている職員に対して給与や賞与に反映しようと努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会意欲のある職員に対しての研修への参加は積極的に進めている。個別に目標・計画を立て研修を実施しています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府や舞鶴市のグループホーム連絡会の交換研修や研修会を通じて同業者との交流を図っている。管理者の活動に協力的でありいろいろな取り組みに対しても理解を示しています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人の訴えや希望に対し耳を傾けながら、それぞれの思いに気づく努力をし、時間をかけながら誠実な対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の間はこまめに連絡を取り信頼関係を築けるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ多くの情報を収集し、ご本人とご家族の希望が取り入れられるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場に立ち、思いを尊重し共に生活を送るよう処遇方針にも上げ努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とスタッフとの関係も大切にし、関わりを持っていただくよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで関わってこられた関係が保てるよう、希望される場所へ出かけたり、来ていただいたり関わりが保たれるよう努めています。	馴染みの美容院に付き添ったり、自宅の庭が気がかりな方はドライブを兼ねて見に行っています。また親戚や近所付き合いのあった方などの来訪時はリビングや居室などでゆっくり過ごせるよう配慮をしたり、友人が併設のデイサービスを利用時に行き来する事もあります。高齢化が進む中、希望は徐々に減っていますが日々の支援の中で思いを知った際はできる限り支援に繋げています。	

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々の言い争いもありますが職員が間に入り仲間意識が持てるよう努めています。ご利用者様の関係性を把握した上で座席を配慮しトラブルの予防や調整に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談や出来ることへの体制作りに努めています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の立場に立ちご本人の思いに耳を傾けるように努めています。日々の生活での会話や行動などから、何を希望されているのか把握し対応、意向の聞き取りが困難な場合は、ご家族からの話を伺い把握に努めています。	入居時に利用者や家族を訪問し習慣や趣味、生活歴や意向などを聞き、家族に書いてもらった情報と共にアセスメントにまとめ職員間で共有しています。入居後は利用者の表情など関わりの中で職員が気付いた意向に繋がる情報を個人記録や連絡ノートに記載しており、職員会議や日々の中でも随時話し合い意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけ多く情報を収集し、入居されてからもご本人やご家族との会話の中から把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員会議で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やモニタリングからプラン作成し支援させて頂いています。(アセスメント作成)毎月の職員会議や申し送りを通じて、ケアの内容の確認、様子、課題など話し合っている。ご本人、ご家族にも状況をお伝えし、意見を聞きケアプランに反映しています。	本人や家族の意向の基、アセスメントを行い介護計画を作成しています。日々計画の実施状況を確認し、毎月会議の中では全利用者について変化が無いかを確認しモニタリングと評価を行っています。入居当初は3ヶ月と6ヶ月後に見直し、その後変化の無い場合は1年毎にケアプラン会議で話し合い計画を見直しています。必要に応じて医師や看護師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録がケアプランのベースになっており、その中での気づきや工夫からケアプランの見直しに活かしています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応できるように努めています。その時々訴えに対し臨機応変な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ散歩など地域に出かけ挨拶などを通じて覚えて頂き、1人で外に出ておられる時には声をかけて頂くようお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望をお聞きし受診や訪問診療の支援をさせて頂いています。	希望のかかりつけ医を継続する事ができますが医療法人でもあり内科は全員が24時間連絡が取れる協力医を選択し月2回往診を受け、体調の変化時なども随時往診を受けています。近隣の歯科は必要に応じて職員が受診支援し、他の専門医については家族が付き添い、状況により職員が同行しその都度情報交換しています。看護職員がおり、日々の健康管理や医師との連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の健康上、気づきや変化があれば看護師に伝えて相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室と情報交換や相談ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、その都度ご家族と話し、ご家族の意向を確認したり、事業所でできること等含めた説明をしている。重度化・終末期に対して家族や介護していく側の職員の不安点も聞きながら、かかりつけ医・往診・訪問看護等と相談し対応している。重度化した場合はご本人、ご家族に事業所で出来ることを伝えその都度考えられるように努めています。	入居時に看取りに関する指針を基にホームの対応について説明し、利用者が重度化した際に再度説明を行い意向を再確認しています。看取り支援をする際は医師や家族、職員で最善の方法となるよう話し合い、医師や看護師と連携し職員間でもケース毎に話し合っています。また家族は面会を増やしたり泊まり込む方もおり協力を得ながら支援を行い、支援後は会議時に振り返る機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを置き、勉強会や研修を実施しています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設置。避難を開始する時期、判断基準(風水害)を明確にしています。防災訓練を行い、地域の方や家族会からも参加を頂き体制を築いています。	年に2回其々昼夜を想定し消防署の立ち会いを受け、通報や初期消火、利用者の避難誘導などを行い消防署員からアドバイスを得ています。更に年に1度風水害を想定した訓練も行い土嚢などを準備しています。訓練は運営推進会議で案内し参加を得たり、地域の訓練には利用者と一緒に参加しています。3日分の食料や備品などを準備しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇方針を毎日唱和し、スタッフの意識付けを行いプライバシーの保護に努めています。ミーティングや面談で注意喚起を行っています。	入職時に接遇やマナーなどに関する研修を行うと共に定期的にプライバシーなどに関する研修も行っています。日頃は丁寧語を基本に個々の利用者や場面に応じわかりやすい言葉遣いを心がけています。不適切な言葉遣いや対応が見られた場合はその都度指導をしています。また入浴など同性介助の意思表示がある場合はできる限り対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、ご本人の希望を聞くように心がけ、自己決定出来ない方はご家族と相談させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ優先ではなく、その方の思いを聞き入れ支援するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望されるものは買い物など一緒に出かけ選んで好みのものを購入できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど出来ることへのお手伝いをさせていただいています。	主にホームの調理師が献立を決め、日々の買い物は利用者も一緒に行く事もあり、皮むきや盛り付け、後片付け等に携わってもらい、職員と共に食事を摂っています。敬老会では家族や地域の方と一緒に食事を楽しんだり、おせち料理や雑司等の季節料理や誕生日には希望の献立にしたり、回転寿司やうどん、和食等の外食の他、おはぎやゼリー等のおやつ作りも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や日々食べておられる様子から健康維持できるようその方に応じた支援に努めています。		

ハーモニグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ることは出来るだけ行って頂き職員が確認しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、パターンの把握、自立に向けた支援に努めています。	トイレでの排泄を基本に日中は重度の方も二人で介助しトイレで排泄できるよう支援をしています。高齢化が進んでいますが出来る限りおむつは使用せず個々のリズムの把握や本人に合った排泄用品を検討したり、時には家族にも相談しながら現状が維持できるよう支援をしています。おむつを使用して退院となった方も早期に元の状態に戻るよう検討し支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促せるよう、運動や食べ物で予防できるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は1日おきになっていますが本人の状態や希望に合わせて臨機応変に対応しています。	入浴は一日置きに主に午後から支援し、午前中の入浴や回数を増やすなど希望を聞きながら柔軟に対応しています。季節の柚子湯をしたり、職員とマンツーマンで会話を楽しみ重度の方も二人で介助しゆっくり湯船に浸かってもらっています。また入浴拒否が見られた場合は声掛けの工夫や職員を交代しながら無理の無い入浴支援に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には自宅で使われていた家具など置かれたり入眠の時間も個人の希望に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があると申し送り時に内容、目的副作用について職員が情報共有できるように報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみを会話の中から見つけ支援できるよう努めています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やご自宅などご本人の希望に合わせ外出できるように支援しています。	初詣や桜や芝桜などの花見や紅葉狩り、鯉のぼりなどを見にドライブを兼ねて出かけています。利用者の高齢化が進み外出が困難になってきていますが気候の良い時期は近隣の散歩や買い物、地域の祭りなどの他、広い庭でお茶を飲みながら外気浴をしたり、育てている花や野菜の水やり、洗濯物を一緒に干すなど工夫しながら外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時ご家族とも相談し希望にあわせ財布を持っていただき買い物などご自分で支払い出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が自室に置けるように回線を引いています。手紙等についても希望があれば対応させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑や花が窓から見える位置に設置したり、ホールにも季節の花を置き季節感を取り入れるように心がけています。	リビングには利用者の書や季節に応じた作品と一緒に作って飾ったり、随所に花を活けると共に庭の花や野菜を眺める事もでき、季節を感じながら過ごせるよう配慮をしています。またテーブル席の他、カウンターやソファなども置き、好みの場所を選び過ごせるよう環境を整えています。日々の換気と共にモップ掛けなどは携われる方と一緒に、温湿度計を確認し清潔で過ごしやすい空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人にとって馴染みの席はあるが、どこにでも座れるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居されてからも常に本人やご家族の希望に沿って、馴染みの家具を入れて頂けるように配慮しています。	居室には使い慣れた筆筒や布団、テレビなどを持参したり、大切な位牌や家族の写真、自身の描いた絵などを飾り、その人らしい居室となるよう支援をしています。また畳を入れて炬燵を置き自宅と同じように炬燵に入り過ごしていた方もおり、これまでの生活習慣も大切に支援をしています。換気や関われる方と一緒に掃除を行い清潔な環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はバリアフリーになっており、必要箇所に手すりも設置しテーブルや椅子も歩行時手の届くところに置き安全な環境作りをしています。生活の中で出来ることは見守りの中安全に行えるよう支援しています。		